

# 平和の大切さを 伝えるために

8月6日、令和6年平和記念式典(広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式)が広島市の平和記念公園で行われ、本市から市内公立中学校・義務教育学校の生徒代表8人と引率教諭1人、市民代表2人、合わせて11人の平和使節団が参列しました。

原爆が投下された午前8時15分に黙とうをささげ、原爆被害の恐ろしさを知るため、平和記念資料館などを見学しました。

また、平和使節団は、9月21日に県南生涯学習センターで行われた「つちうらクロバーフェスティバル」で体験発表を行いました。

平和使節団として参加した中学生の平和への想いを紹介します。

☎総務課(☎内線2010)

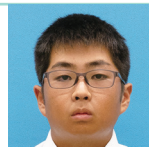
土浦第一中学校  
立花 優奈さん



私は、平和使節団として訪れた広島で、原爆が多くの人の日常生活を一瞬にして奪い、その後も長い間、人々を苦しめてきたということを実感しました。原爆は、もう二度とこの世界に落としてはいけません。

しかし、今の世界には核兵器が存在しています。広島と長崎での被害を忘れず、世界平和をつくっていけるよう、私は、今回の体験を心に刻み、平和のためにできることを考え、実践していきたいと思います。

土浦第二中学校  
木村 勇翔さん



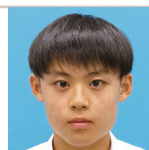
私は、平和使節団に参加して、原爆や戦争の恐ろしさや悲惨さを改めて肌で感じることができました。79年前にたった一発の原爆が投下されたことで、活気に溢れていた広島の日常が奪われました。近年でも世界各地で戦争が続いている現実がある以上、平和は訪れません。平和な世界をつくるには、広島で起きたことを後世に語り継いでいくこと、一人一人が平和の尊さを考えていくことが大切なのだと強く思いました。

土浦第三中学校  
菅谷 一千華さん



戦争がもたらした苦しみはその時だけでなく、その後も心や体に大きく影響するということを、広島を訪問して改めて痛感しました。身体的被害だけでなく、精神面でも、当時の悲惨な光景が深く心に残り、約80年経った今でも当時を思い出したくないと、心を閉ざしてしまう人もいます。原爆の恐怖は体だけでなく、心にも傷を残し続けることを絶対に忘れず、これからも苦しんだ人々の声を、未来に伝え続けなければいけないと思いました。

土浦第四中学校  
阿久津 文雄さん



平和記念資料館、原爆ドームを見学したことや平和記念式典に参加したことを通して、過去と現在の両方の広島に触れることができました。原爆によって壊滅した広島は、79年の歳月をかけて再建し、路面電車が走るにぎやかな街になっていました。この繁栄が再び失われることを絶対にしてはいけないと思います。世界から核兵器・戦争をなくし、平和の尊さを多くの人に伝えていきたいと思っています。



▲平和使節団結団式の様子



▲「つちうらクローバーフェスティバル」でのパネル展示



▲原爆ドームの前で



▲「つちうらクローバーフェスティバル」での体験発表

土浦第五中学校  
石神 陽詩さん



私は平和記念式典に参加し、目で見て学んだこと、肌で感じたことがあります。それは、原爆の恐ろしさ、被爆した方々の体験を無駄にしないことです。一発の原爆で多くの命とともにたくさんの愛や夢が消えさった79年前。今、私たちができることは、一人一人が思いやりの心を持ち、平和を望み、これからもっと原爆について、後世に二度と繰り返してはいけないと強く絶えず伝えていくことです。

土浦第六中学校  
居城 愛凜さん



実際に被爆地広島を訪れ、想像してもしきれないほどの痛みや苦しみ、多くの方の夢と希望が失われたという事実を改めて感じました。少し前までは、「平和」と聞いてもぴんときませんでしたが、温かいご飯が食べられるなど、今の私達の日常のことで、この日々があるのは今まで多くの方に守られてきたからだと気付きました。これからは私たちも安心して生活できる「平和」な日々を守り、つくっていきます。

都和中学校  
神長 優月さん



戦争は、79年経った今でも、被害にあった方々に大きな傷を残しています。

当時のことを思い出したくないと言って語ろうとしない方もいます。こんなにも長く、人々の心を傷つけた「戦争」という過ちを繰り返すことのないように、これから私たちが戦争の悲惨さなどを周りに伝えていき、戦争や平和について考えるキッカケになることができれば良いなと思います。

新治学園義務教育学校  
小野口 碧人さん



私は、平和使節団として広島に訪問し、さまざまなことを学びました。8月6日午前8時15分に投下されたたった一発の原爆によって、これまで受け継がれてきた平和な広島は一瞬にして奪われてしまいました。しかし、今では広島の人々のたくさんの努力によって美しい広島に変わりました。もう二度と平和が奪われることがあってはいけません。そのためにも日本が中心となって平和の尊さを世界に伝えていかないとはいけません。私は思います。